

学校事故防止の徹底と不祥事の絶無 ～学校教育を支える基盤づくり～

県南教育事務所グランドデザイン

学校教育課通信

令和8年8月17日（月） 第219号

編集・発行：県南教育事務所 羽 染 聡

学校事故防止の徹底と不祥事の絶無は、学校教育を支える基盤づくりという点で、さらには「信頼される学校づくり」という点で極めて重要です。

県南教育事務所では、そのグランドデザインにありますように「学校教育を支える基盤づくり」を重点の一つとして掲げ、「学校事故防止の徹底と不祥事の絶無」に取り組んでいます。

令和8年度 学校事故防止対策研究協議会

令和8年5月28日（木）西郷村文化センターにおいて、主に各校の教頭先生方を対象として、令和8年度学校事故防止対策研究協議会を開催しました。協議会では、講話「学校事故及び教職員の事故防止」「児童生徒の事故防止」「教育事務所長講話」を行い、その後「盗撮防止に向けた取組」をテーマとした研究協議を行いました。

研究協議では、本県で昨年度2件発生し、いずれも懲戒免職処分となった「盗撮」の事案をもとに、「盗撮防止ガイドライン」等を参考に、異校種によるグループ協議を行いました。

【参加者の感想】（以下は複数意見があがった感想です。）

- 子どもが自らを守るように、子どもにも研修や指導が必要である。
 - ・ 県立学校では「情報（教科）」でモラル的なことを指導している。
- 「学校はカメラを設置しやすい」ことを意識する必要がある。
- 職員を信用しつつ、子どもを盗撮被害から守りたい。
- 職員のいつもと異なる行動、「おっ？」と思った職員の行動には声をかけたい。
 - ・ 「何のために撮っているの？」「戻って来なかったけど、何かあったの？」
- 巡視や点検などを、当たり前のことを当たり前にやることが大切である。
- 個人的なことにも関わるため、職員の特性を見極めて、声かけ等の対応をしたい。
- 盗撮防止ガイドラインをもとに職員研修を実施していきたい。
- 「信頼される学校づくりを職場の力で」の「チェックシート」の項目でも、徹底がされていない項目がある。チェックシートは最低限のこととして徹底していきたい。

<点検に関して>

- 「点検のポイントや定期点検表の自校化」については、いくつかの学校で例があがった。また、「盗撮防止ガイドラインを最低限として徹底する」としている学校もあった。
- 各学校特有の構造上の問題（カメラを設置しやすい箇所）があるため、点検のポイントや定期点検表の自校化が必要である。自校化は教職員とともに練り上げ、アップデートが必要である。
- 整理整頓の徹底、各部屋の使用目的の明確化、不要な物の撤去、鍵の管理の徹底が、対策の基本である。また、整理整頓された状態を共有することも必要である。

<その他>

- 異校種間で情報交換をすることで、自校の対応を客観視することができた。
- 雑談として不祥事を話題にすることを「プチ服務倫理委員会」としている学校があった。

令和8年度 域内服務倫理対策会議

令和8年7月31日（金）西郷村文化センターにおいて、各校の校長先生方を対象として、「教職員一人一人に対し、不祥事を自分事としてとらえさせ、危機意識を浸透させるために」をテーマに域内服務倫理対策会議を開催しました。

対策会議では、昨年度の懲戒処分の現状と改訂された不祥事根絶プロジェクトについて研修を行いました。その後、グループ協議として、「不祥事根絶のための行動計画」をもとにした各校の取り組みの成果と課題、そして「盗撮防止」に対する具体策を話し合いました。

その後、「盗撮防止に向けた取り組みのポイント」として、主任管理主事が物理的・環境的対策、風通しのよい職場環境づくりの大切さについて講話を行いました。さらに、学期末等の公金処理に係る管理・点検についての講話も行いました。



【主任管理主事の講話のスライドの一部】

1 物理的・環境的対策

盗撮が起こりにくい環境をつくることは、管理職の重要な任務

2 風通しのよい職場環境

「まさかあの先生が」を防ぐリスクマネジメント

【参加者の感想】

＜参考となった他校の取り組みの例等＞

- 学校運営協議会委員の服務倫理委員会への参加等（校舎内の巡回等）、マンネリ化に対する改善策を学ぶことができた。
- チェックシートは活用しているが、繰り返しの活用には至っていなかった。今後の取り組みの参考としたい。
- 毎日の校内巡視簿に盗撮チェック項目を作っている学校があり参考になった。
- 盗撮防止に向けて、個人の携帯電話のカメラ機能の使用制限を徹底する校内規則の策定に取り組みたい。
- 盗撮防止については、同じ悩みを共有できた。写真撮影の保護者との取り決めに文書で確認した事例は参考になった。

＜全般的な感想＞

- 不祥事を完全に防ぐことはできないかもしれないが、起こりにくい環境をつくり上げることが大切であるとあらためて感じた。
- 職員には不祥事を起こさないという意識を常に持たせること。管理職は職員に不祥事を起こさせない環境づくり、仕組み、確認を徹底することを肝に銘じました。

私たち教職員は教育の専門家として使命感を持ち、誠意を持って教育活動を行う中でしか信頼を回復することはできません。私たち一人一人が、真摯に教育に向き合い、専門的知識と教育的愛情により、未来を担う子供たちを教え育み、誇りを持って不断の努力をする中で、信頼は築くことができるのです。

（「信頼される学校づくりを職場の力で」（令和8年3月）より）